

『自分で考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～

2025/12/15

SAH×交通 どうすれば交通事故をなくせるか

交通ルールの遵守、自転車の運転マナー向上…どうすれば前南生の意識を上げられるか

1 交通委員より

①通学の道のりで、ここは危ないな(自分自身が危ない経験をした)、
こういう危ないのを見かけたということを教えてください。また、前南
周辺でここは危ないところという場所をあつたら教えてください。

白線のない道 朝倉モール近くのT字路

曲がり角で、前方から来る車に気づかず衝突しそうになったこと



がありました。その場所にはカーブミラーもなく、どのように事故を防げば良いのか分からず、危険だと感じました。

前橋玉村線の歩道に雑草が多く、自転車の人とすれ違う隙間がない。竜門集落センター
東から北上する際、一時停止せず、カーブミラーもよく確認しない人をよく見かける。

②前南生の交通マナーで気になるところ、問題点を具体的に教えてください。

ヘルメットを被らない・ヘルメット被っている人が少ないと・ヘルメット着用・

ヘルメットを持ってきてはいるがいつも着用しているという人が少ない

交差点などで一時停止している人が少ないように感じる 並列走行



東門付近

③前南生に交通マナーやルールを守るための、または改善する意識を高めるためにはどうしたらよいでしょうか。アイデアや方策を伝授してください。また、交通委員のあなたから前南生へ呼びかけのメッセージをお願いします。

交通事故に関する講演会を前南で開く。ヘルメット被ると良いことあるよ！

交通事故の怖さや恐ろしさを呼びかけて生徒一人一人が交通ルールを守る意識を持つことが大切だと思いました。

他の人もルールを守っていないから、自分を守らなくて良いのではなく、一人一人が安心安全に登下校するためにも交通ルールを守るということが当たり前である前南生になることを目指していきたいです。

前南周辺の危険な場所をクラスで確認し、交通マナーを守っていない人がいたら、お互いに声を掛け合うことを心がけることが大切だと思います。

罰金があることをもっと伝える。 落ち着いて登校・下校する。左右の安全確認を。

「注意されたくない」からではなく、自分や友達の命を守るために交通マナーやルールを守る必要があるということを改めて理解してもらう。

朝の登校中は急いでいたり、友達と話していたり、つい周りが見えなくなってしまうことがあると思います。しかし、毎日の登下校を安全に過ごすためには、一人ひとりが交通ルールを意識することが大切です。交通ルールを守るのは、誰かに言わされたからではなく、自分や友達を守るためです。お互いに声をかけあって安全に過ごせるようにしましょう。



2 サイクル・サミットに参加した生徒より

①サイクル・サミットの内容を教えてください。印象に残った内容や新たに知ったことあれば書いてください。

□講義では、高校生の自転車事故に関する話を聞きました。全ての事故のうち高校生が関係する事故は3割であることや、交通販促通告制度の反則金などについて聞くことができました。また、登校時、出会い頭の事故が多く焦りや交通法違反が事故の要因となっていること

トラックの死角を体験



とを知ることができました。実技研修では、トラックの死角やイヤホンをつけて車がどの近くまで来たら気づくことができるかなどの体験をし、車が停車中の時の近くの通りかたや見通しの悪い角の危険性について学ぶことができました。

□これから導入される青切符や交通事故が起こりやすい場面などの説明がありました。青切符は、少しでも違反したら罰金だと思っていたけど、基本的には今と変わらず警告だけだと知りました。実技のところでも、ホントに事故が起こる寸前のものを再現したのを見られたので、改めて気をつけたいと思いました。

②サイクル・サミットに参加しての感想をお願いします。

□自転車に乗る時は標識を見たり、危険予測をすることが大切だと思いました。サイクル・サミットを通して、少しの油断や交通違反が命に関わる大きな事故に繋がってしまうかもしれないということが分かりました。また、自分だけでなく運転手がどこを見ているか、見えているかなども確認することが大切だと思いました。一人一人がヘルメット着用や時間にゆとりを持つことを意識して自転車に乗り、事故を減らしていきたいと思いました。

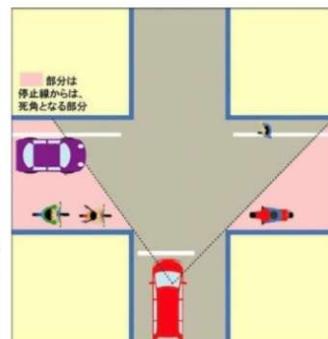
□前南以外の学校の人とこうやって関わる機会が今までなかったので、知らない人がいるだけで、こんなに変わるんだと思いました。実技の時に、「日常があるのは生きているから」みたいな話があり、本当にそうだと思いました。交通事故は自分が意識していても起こってしまうこともあるので、班別協議の時にやった「危険予知トレーニング」を自分が普段通る道で危険を考えながら、事故に気をつけたいと思いました。

○見通しの悪い交差点

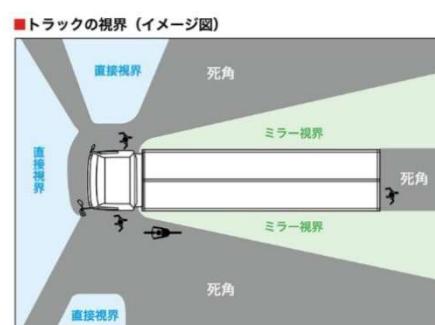
見通しの悪い交差点での車の見えている範囲について、教えていただきました。車に乗って、実際の交差点とほとんど同じ場所で塀がある状態での運転手さんの視野を体験しました。

実際に乗ってみると、一時停止線のところで一度停まっても交差点の左右は何も見えませんでした。停止線から2m越えてやっと左右が見えるようになりました。

塀などがある場合、運転手が標識を守ったり気をつけて運転したりしていても、見通しが悪く、自転車などが来ていることが見えづらいです。そのため、自転車に乗っている時に見通しが悪い状況では一度停まって周りに注意してから交差点を渡るといいと思います。



大型車が関係する事故再現と注意点



この図を見て分かるように、トラックは死角が多いです。そのため右折もある際、自転車が近くにいても死角に入ってしまい自転車を巻き込んでしまうなどという事故が起こります。

実際にトラックに乗ってみると、サイドミラーがあっても視界がとても狭かったです。トラックが通る機会が多くあると思うので、死角が多いことも頭にいれて自転車を運転するようにしてください！

○イヤホンをつけながらの自転車運転

イヤホンを実際につけてどれくらいの距離から車の音に気がつけるのか体験させていただきました。体験の結果、右の表のようにになりました。イヤホンをつけない場合は7メートル以上から気づくことが出来ていたのでイヤホンによって本来気づけるはずの車に気づけなかったのだと思いました。走行中のイヤホンは4月からの交通反則通告制度により規制されるので、イヤホンをつけながらの走行はやめるべきだと思います。



駐停車車両の側方通過時の注意点

講師の方に、車のドアが開く場合の再現をしていただきました。側方通過時には、スピードを落とす、車との距離を空ける、歩道へ行くなど対策ができます。

車のドアが開く以外にも、事故が起きてしまう可能性があるので、日頃から危険を予知して自転車を運転してください！



←↑サイクル・サミットに参加した2人がまとめたスライド